

上部消化管内視鏡における鎮静剤使用の安全性についての検討

施設名 医療法人祥久会 日高大腸クリニック

外来内視鏡室 ○岩根亜依里 谷口栄子 大塚光 宮本和歌子 高倉亜衣子
西坂恵美 東舞 宮崎絵美 古田佳代

【目的】

当院での上部消化管内視鏡検査については年齢層など被験者の背景も様々であるが、被験者の負担軽減の目的で約 97%の症例を鎮静下に行っている。鎮静剤使用に関しては、呼吸抑制・血圧低下などの副作用があり注意を要すが、今回、鎮静剤使用時におけるバイタルサインの変動を検証し、安全性について検討した。

【対象】2020年3月から2020年7月までの間に当院で上部消化管内視鏡検査を施行した外来患者200人（コロナ感染拡大防止時期の為、今回検査件数は例年に比べ少ない）。男性:女性=125人:75人、平均年齢;65.7才(15才~87才)。

【方法】対象症例全例に対し、上部内視鏡検査開始前と検査終了時に血圧・脈拍・SPO₂を測定、検査中はSPO₂・脈拍のみ測定した。鎮静希望者に、検査開始前にフルニトラゼパム（以下サイレース）0.1 mg~0.4 mgを蒸留水で希釈し静脈内投与した。投与量は、年齢・嘔吐反射の有無、過去のセデーションの効果、検査後の感想によって医師の指示にて決定した。

鎮静剤使用時のバイタルサインの変動を、年齢・スコープ径(4種)・サイレース投与量の因子を考慮し調査した。

【結果】投与量の内訳は主に、鎮静無しが7人(3.5%)、サイレース0.2 mg使用が144人(72%)、サイレース0.4 mg使用が44人(22%)、0.1 mgと0.25 mg使用は合わせて5人(2.5%)であった。検査前より3%以上のSpO₂低下を60~80代の被験者に多く認めたが、年齢層による有意差は認めなかった。いずれの症例も検査終了時には、正常域までの改善は確認された。血圧・脈拍の変動についても年齢層における差を認めなかった。サイレースの使用量別で検証した結果では、サイレース量増加に伴うSpO₂低下の傾向を僅かに認めたが有意差はなく、血圧・脈拍についても、使用量による差を認めなかった。スコープ径の太さとSpO₂・血圧・脈拍の変動については関連を認めなかった。

【まとめ】患者の年齢、スコープ径、サイレース投与量いずれの因子においても鎮静剤投与によるバイタルの変動に大きな有意差は認められなかった。当院で行われている鎮静方法は一定の安全性があることが考えられた。今後、覚醒状態や患者満足度等をもとに研究を重ね、患者の安全性をより向上させていきたいと思う。